

平成 29 年度（平成 28 年度対象）教育委員会の事務執行等に関する評価報告書より  
（重点施策にかかるヒアリング意見抜粋）

**方向性 I 子どもの「生きる力」を育む**

**基本方針 1 子ども一人ひとりが大切にされ、共に育つ教育を進めます**

**施策名 (1) 幼児期の教育・保育の充実を図ります**

**【意見】**

公立幼稚園だけでなく、私立幼稚園や公私立保育所の教職員が合同研修会や日常的な交流などで情報共有を図り、公私立の教職員が共に資質向上に取り組んでいます。また、幼稚園と近隣の保育所に通う子どもの日常的な交流やイベントの開催などにより、子どもたちが共に学び、遊び、成長できる機会を提供しており、子どものコミュニケーション能力の向上にも繋がっています。幼稚園と保育所が国で縦割りになっている中、幼児教育センターの開設に向け、宝塚市が独自に縦横の連携を取ってきたことは十分に評価できます。

今後も、幼児教育センターを中心に就学前教育の更なる充実に向けた課題を模索していく必要があると考えます。

**方向性 I 子どもの「生きる力」を育む**

**基本方針 3 心身ともに健やかな子どもを育てます**

**施策名 (1) 体育・スポーツ活動を推進します**

**【意見】**

小学校・中学校で実施される新体力テストの結果が、全国平均で8種目上回ることを目標としていますが、小学校5年生では1種目、中学校2年生では3種目しか達成することができなかったことから、施策の評価Cは妥当であると言えます。

子どもの体力向上を体育の授業だけに委ねることには限界があることから、今後はそれぞれの学校でテストの結果を分析し、系統性を持ったプログラムを組み立てて組織的に取り組むべきだと考えます。また、施策の推進にあたっては、新体力テストの結果だけでなく、学校生活や部活動での取組の中で発揮されることもありますので、現在の指標が相応しい指標であるのか、今一度見直しを行う必要があります。

**方向性 I 子どもの「生きる力」を育む**

**基本方針 6 ことばを大切にし、感性豊かな子どもを育てます**

**施策名 (1) 読書活動を推進します**

**【意見】**

学校図書館司書を1週間に4日配置しており、司書お薦めの本を掲載したパンフレットを作成し、子どもへの配布やホームページへの掲載を行っています。また、多くの保護者や地域の方が図書ボランティアとして学校図書館の掃除や本の整理に手を貸してくださるなど、読書環境の整備は充実しており子どもたちの読書量は増えているとの説明を受けました。

学校では、子どもの読書習慣の定着に向けた司書の工夫と努力が見られるほか、読書週間や

朝読書の取組も積極的に行っていることから、施策の評価Aは妥当だと言えます。早い時期から読書を習慣づけることは子どもの成長にとって重要であることから、今後は幼稚園図書の実践と家庭での読書の推進にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

## 方向性 II 学校園、教職員の教育力を高める

### 基本方針 8 学校教育を担う人材の育成に努めます

#### 施策名 (1) 教員の授業力向上を図ります

##### 【意見】

現職研修会、情報教育講座、パワーアップ講座など、教員を対象にした研修を積極的に開催されていることは評価できますが、内容が教員として知っておくべきことなど基礎的なことが多く、施策の目的である授業力の向上に繋がるであろう研修は限られているように思います。研修の参加率を向上させることは大切ですが、一方的に講師の話聞くだけの内容では、参加者のアウトプットに活かされているのかが分かりにくいことから、実践的な内容を多く取り入れるなど、研修内容を充実させるよう検討してみてください。

## 方向性 II 学校園、教職員の教育力を高める

### 基本方針 8 学校教育を担う人材の育成に努めます

#### 施策名 (2) 管理職を育成し、主幹教諭の有効活用を進めます

##### 【意見】

管理職育成特別研修は、教職員経験5年以上の教諭を対象に学校経営の視点を意識付けし、学校経営を担いたいという人材の掘り起しをしようという研修であるとの説明を受けましたが、これまで何年も研修を行ってきた中で、研修に参加することで管理職試験を受講しようという意欲に結び付いた人はわずかであると考えます。

今後、研修内容や講師の見直しを進める必要があるほか、学校現場の意識改革を進める方策を検討していくべきです。また、指導主事が大きなポイントであるとの認識を持たれているとのことですので、それも合わせて管理職の育成に向けた抜本的な改革を進めてください。

## 方向性 III 市民全体で子どもを応援する

### 基本方針 11 家庭・地域と連携し、子どもの発達を支援します

#### 施策名 (1) 学校・家庭・地域の連携を強めます

##### 【意見】

学校支援ボランティアの登録者数は指標の目標値を大きく超えているが、コーディネーターの数が増えていないことから施策の評価をBにしたとの説明を受けました。

コーディネーターは、学校支援ボランティアのミスマッチを防ぐだけでなく、地域活動でも活躍していただけるものと期待できますので、施策の目的でもある教員の負担軽減のためにも現在の1名体制では不十分であると言えます。コーディネーターの確保にあたっては、学校や地域とも相談しながら人選を進めていくとともに、指標に配置人数の目標値を上げるなどして、積極的に取り組んでください。